



外国人の小学校訪問、交流（平成22年1月）

5年後のめざす姿

○東京オリンピック・パラリンピック開催を控え大田区内を訪れる外国人はますます増加し、国際都市として、言語や文化などにも配慮しおもてなしの心に満ちた、親しまれるまちになっています。

これまでの成果

- 羽田空港の国際化やグローバル化の進展により増加する外国人や、大田区を初めて訪れる人など、すべての人が、まちなかを安心して回遊できるよう、ユニバーサルデザイン\*に配慮した観光案内サインを29基設置しました。外国人を積極的に受入れる店舗などを登録する大田区ウェルカムショップ制度（117か所\*<sup>1</sup>）や、来訪者に近隣案内などの情報提供をする店舗などを登録する大田区まちかど観光案内所制度（121か所\*<sup>1</sup>）を新たに開始しました。
- 区内在住などの外国籍の方を観光大使として任命し、様々なイベントへの参加や、区の魅力を世界に広く発信していただく、「来～る大田区大使\*」を新設しました（延べ41人、14か国・地域）。大使とイベントで交流した地域の方からは、「国際交流を肌で実感できた」などの声が寄せられています。
- 以前から交流を続けてきた、アメリカ合衆国セーラム市及び中国北京市朝陽区に加え、中国大連市との教育・産業交流や、ドイツブレーメン市における教育交流を開始するなど、多様な文化を持つ諸外国との交流を進展させました。

★1 平成25年12月18日現在

\*1 多文化共生  
国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域の中でともに暮らしていくこと。

現状と課題

- 東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、大田区を訪れる外国人はますます増加することが予想されます。外国人がより快適に、より安心して区内を回遊するためには、言語だけでなく、文化・習慣の違いにも対応することが求められています。
- 平成24年度に実施した大田区政に関する世論調査では、「大田区は国際交流、多文化共生\*<sup>1</sup>が進んだまちである」と回答した区民は約20%にとどまりました。区民が外国人と交流する機会を増やし、外国人との交流をより身近に、より自然に感じていただくことが、地域で外国人を受入れ、おもてなしの心を伝えるにあたって最も重要です。
- 大田区は、区政推進のキーワードとして「地域力」と「国際都市」を掲げています。大田区を訪れた外国人が地域で交流して地域の魅力を感じ、発信していただくことが「国際都市おおた」の魅力と存在感を国内外に示すことにつながります。地域での機運醸成と、外国人による発信を両輪で推進することが求められています。

指標に注目!

◆めざす姿にどれだけ近づいたかを測るモノサシ（指標）と目標値

モノサシ（指標）	未来プラン策定時の「現状」	25年度		30年度
		中間目標	最新値	目標値
国際交流団体の登録数（団体）	30団体 （平成21年度）	—	45団体 （平成24年度）	78団体
大田区の外国人延べ宿泊者数（人）	7.7万人 （平成21年度）	—	7.5万人 （平成24年度）	15万人

施策の体系

枠で囲んである事業は、その主な取り組み内容を次ページ以降で紹介しています。

国際都市として交流を育みます

1 外国人からも親しまれるまちづくり

■ 誰にもわかりやすい掲示物など情報のユニバーサルデザイン\*化(再掲1-2-2)

■ 多文化共生\*推進センター事業の充実(再掲3-1-3)

- 多言語に対応した大田情報の発信・提供  
↳ 観光、産業から日常生活まで幅広く多言語に対応した大田情報を国内外に発信
- 外国人との交流の機会の充実  
↳ 訪日・在住外国人と日本人区民との交流の場としてのイベント等を充実

■ 訪日外国人等受入環境整備(再掲2-3-4)

■ インバウンド\*誘致の推進(再掲2-3-4)

2 国内外の諸都市との交流・友好親善

- 海外友好都市、姉妹都市との交流促進  
↳ 市民交流、青少年交流など多様な交流を推進した友好親善の拡充
- 国内友好都市との交流促進  
↳ 長野県東御市、秋田県美郷町との文化交流などを推進
- 都市間交流の活性化  
↳ 多様な文化を持つ諸外国と産業・教育など幅広い分野での交流を活性化

3 「国際都市おおた」を促進する地域づくり

■ 18色の国際都市事業の推進

■ 全区的・持続的な国際交流の推進

■ 「国際都市おおた」の魅力と存在感を国内外に発信

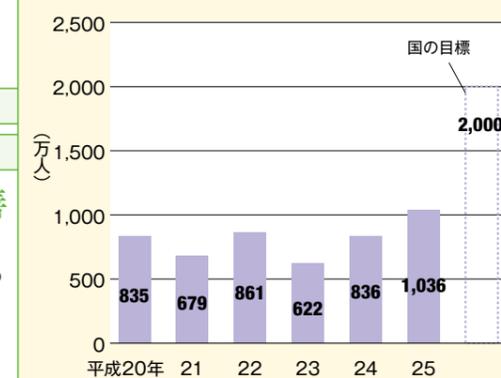
■ (仮称)「国際都市おおた大使」事業の実施

■ 大田の魅力再発見事業の推進

↳ 大田区の特徴である水辺などの自然環境や映画、文化等の地域資源を活用した観光まちづくり事業

参考データ

▶ 訪日外国人の数



出典：日本政府観光局（JNTO）ホームページ

まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市

首都空港「羽田」と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

## 国際都市として交流を育みます

### 施策の方向性と主な事業

#### 1 外国人からも親しまれるまちづくり

区民のおもてなしの心が、大田区を訪れる外国人に伝わるよう、ソフト・ハードの両面から受入れ環境を整備します。また、平成22年度に開設した多文化共生\*推進センターを拠点として、在住外国人が暮らしやすいまちづくりを進めます。

#### 主な事業

■ 誰にもわかりやすい掲示物など情報のユニバーサルデザイン\*化 (再掲1-2-2)

■ 多文化共生\*推進センター事業の充実 (再掲3-1-3)

■ 訪日外国人等受入環境整備 (再掲2-3-4)

■ インバウンド\*誘致の推進 (再掲2-3-4)

#### 2 国内外の諸都市との交流・友好親善

姉妹都市・友好都市との交流を継続するほか、国内外の諸都市との新たな交流を推進します。

#### 3 「国際都市おおた」を促進する地域づくり

区政推進のキーワードに「地域力」と「国際都市」を掲げる自治体として、2つのキーワードの関連を、より多くの区民が感じることができるよう、地域での外国人との交流を促進します。また、「国際都市おおた」としての魅力を国内外に発信します。

### 主な事業

#### 18色の国際都市事業の推進

国際都市・多文化共生\*推進課と18の特別出張所が、地域団体と連携しながら各地域の独自性を活かし、「国際都市おおた」を実感できるような取り組みを行い、外国人と地域住民との交流促進を支援します。

(平成/年度)	26	27	28	29	30	31~
地域の特色を活かした国際都市事業実施の支援	→					継続

#### 全区的・持続的な国際交流の推進

国際交流事業を全区的・持続的に実施します。そのために、区民主体で柔軟かつ日常的に国際交流イベントなどを開催できる仕組みとして、(仮称)国際交流協会を開設します。

(平成/年度)	26	27	28	29	30	31~
運営方法・主体などの検討	→					
(仮称)国際交流協会開設・運営			→			継続

#### 「国際都市おおた」の魅力と存在感を国内外に発信

「地域力」の向上が国際都市としての魅力を高め、国内外に大田区の国際都市としての魅力が伝わり、さらに「地域力」が高められるという、相乗効果を生み出すため、ものづくり、良好な住宅街と商業など多様な魅力を持つ大田区の強みを活かし、世界に開かれた大田区の魅力を国内外に発信します。

(平成/年度)	26	27	28	29	30	31~
(仮称)「地域力・国際都市宣言」調査・検討・実施	→					推進
(仮称)区民・有識者会議の設置	→					継続

#### (仮称)「国際都市おおた大使」事業の実施

大使の特技・強みに合わせ様々な分野にわたって活躍する、(仮称)「国際都市おおた大使」を新設し、「国際都市おおた」推進の担い手とします。

(平成/年度)	26	27	28	29	30	31~
制度調査・検討	→					
(仮称)「国際都市おおた大使」任命		→				継続